

平成 2 9 年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立矢田西中学校

平成 3 0 年 3 月

— 学校教育目標 —

人間尊重の精神を基盤として、生徒一人一人を見つめる中で、
教育内容の充実を図り、保護者・地域の信頼に応える教育を
すすめる。

(1) 今年度組織目標

すべての子どもたちが学力を身に付けながら健やかに成長し、自立した個人として自己を確立し、他者とともに次代の社会を担うようになることをめざす。

そのために、社会が多様化し激しく変化する中で、「生き抜く力」を備え、未来を切り開く心豊かな子どもたちを育む。

(2) 重点目標

- ① 教職員一人一人が授業力の向上に努め、生徒の学習に対する理解や興味関心の向上をめざす。
- ② とともに育つ地域・校種間連携をめざす。
- ③ 人権尊重の精神を基盤とする豊かな感性を育む。
- ④ キャリア教育を推進し、望ましい職業観を育み、生徒一人一人の進路希望の実現をめざす。
- ⑤ 人と人との「つながり」を大事にした、前向きで活動的な学校文化をめざす。
- ⑥ 礼儀を重んじ、基本的生活習慣を身に付け、社会規範意識の向上を図る。
- ⑦ 健康の保持・増進および体力の向上をめざす。

大阪市立矢田西中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

ここ数年の学校の落ち着きとともに、学校や社会のルールを守るなど生徒の規範意識は高いが、安全安心な学校・楽しい学校生活には課題が残る。また、自尊感情が全国に比べて低く、継続して家庭・地域とも協力し、基本的な道徳心・規範意識の醸成に努める必要がある。

学力面では、全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等において、全体としては効果が表れつつあるが、まだ基礎・基本の定着が不十分な生徒の割合が多く、論理的思考能力においても弱い面がある。また、放課後学習など校内で環境を整えると、参加する生徒は多くみられるが、家庭における自主的な学習習慣が身につけていない生徒が多く、生活習慣のあり方とともに、学習面での自立などの課題が残る状況である。

体力面においては、全国体力・運動能力等調査では全国平均を上回るものも多いが、学年や種目によっては下回るケースもあり、安定した運動習慣がさらに必要である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

○ [全国学力・学習状況調査]・・・平成32年度の生徒質問紙調査での肯定的回答

・「将来の夢や目標を持っていますか」…毎年70%以上にする。

(施策2 道徳心・社会性の育成)

○ [各学校におけるいじめ・問題行動調査等]

・平成29年度～32年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年95%以上にする。(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

○ [各学校におけるアンケート]・・・平成32年度末生徒・保護者アンケートでの肯定的回答

・生徒「学校のきまり・規則を守っていますか」…94%以上にする。

(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

・生徒「学校は落ち着いており、安心して学校生活を送れる」…90%以上にする。

(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

・生徒「楽しい学校生活を送っている」…80%以上にする。

(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

・生徒「すすんで挨拶をしている」…80%以上にする。

(施策2 道徳心・社会性の育成)

・生徒「自分にはよいところがある」…70%以上にする。

(施策2 道徳心・社会性の育成)

・生徒「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」…90%以上にする。

(施策2 道徳心・社会性の育成)

・生徒 命や人権の尊さについての各設問 …90%以上にする。

(施策2 道徳心・社会性の育成)

・生徒「読書が好き」…平成28年度より10%増加させる。

(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

・保護者「学校は情報公開(学年・学級通信・ホームページなど)をよく行っている」…75%以上にする。(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○ [全国学力・学習状況調査]

- ・平成 32 年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題・活用に関する問題の平均正答率で、大阪府平均を上回る。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

○ [大阪府中学校チャレンジテスト]

- ・平成 32 年度の大阪府の中学校チャレンジテストにおける各教科の平均正答率で、大阪府平均を上回る。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

○ [大阪市英語力調査]

- ・平成 32 年度の大阪市英語力調査における各学年の平均スコアで大阪市平均を上回る。

(施策 6 国際社会において生き抜く力の育成)

- ・平成 32 年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合を平成 28 年度より 10%以上上回る。

(施策 6 国際社会において生き抜く力の育成)

○ [全国体力・運動能力、運動習慣等調査]

- ・平成 32 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における調査結果で、男女とも全国平均を上回る。

(施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成)

○ [各学校におけるアンケート]・・・平成 32 年度末生徒アンケートでの肯定的回答

- ・「授業がわかりやすい」…平成 28 年度より向上させる。「

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ・「家で学校の授業の復習（予習）をしていますか」…平成 28 年度より向上させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ・「朝食を毎日食べていますか」…85%以上にする。

(施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成)

- ・「運動することが好き」…80%以上にする。

(施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成)

【その他】

○ [小中一貫教育の充実]

- ・小中兼務を計画・実施するとともに、毎年小中教員の全体会・合同研修会を 1 回以上開催し、教職員の相互授業見学や生徒間交流などを複数回実施する。

(施策 8 施策を実現するための仕組みの推進)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ① 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ② 平成29年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を90%以上にする。
- ③ 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。
- ④ 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ⑤ 今年度の全国学力・学習状況調査での「将来の夢や目標を持っていますか」の設問で肯定的回答を70%以上にする。
- ⑥ 校内生徒アンケートでの「学校は落ち着いており、安心して学校生活を送れる」の設問で肯定的回答を90%以上にする。
- ⑦ 校内生徒アンケートでの「楽しい学校生活を送っている」の設問で肯定的回答を80%以上にする。
- ⑧ 校内生徒アンケートでの「すすんで挨拶をしている」の設問で肯定的回答を80%以上にする。
- ⑨ 校内生徒アンケートでの「自分にはよいところがある」の設問で肯定的回答を70%以上にする。
- ⑩ 校内生徒アンケートでの「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の設問で肯定的回答を90%以上にする。
- ⑪ 校内生徒アンケートでの命や人権の尊さについての設問で肯定的回答を90%以上にする。
- ⑫ 校内生徒アンケートでの「読書が好き」の設問で肯定的回答割合が前年度より上回る。
- ⑬ 校内保護者アンケートでの「学校は情報公開(学年・学級通信・ホームページなど)をよく行っている」の設問で肯定的回答を75%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ① 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。
（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと）
- ② 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率4割以下の児童（生徒）を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- ③ 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率7割以上の児童（生徒）を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- ④ 平成29年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。
- ⑤ 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である（立ち幅とび）の平均の記録を、前年度より5ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- ⑥ 全国学力・学習状況調査における知識に関する問題・活用に関する問題の平均正答率で、大阪府平均を上回る。
- ⑦ 大阪府の中学校チャレンジテストにおける各教科の平均正答率で、大阪府平均を上回る。
- ⑧ 大阪市英語力調査における各学年の平均スコアで大阪市平均を上回る。
- ⑨ 大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検３級以上の英語力を有する生徒の割合を前年度より上回る。
- ⑩ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における調査結果で、男女とも全国平均を上回る。
- ⑪ 校内生徒アンケートでの「授業がわかりやすい」の設問で前年度より向上させる。
- ⑫ 校内生徒アンケートでの「家で学校の授業の復習（予習）をしていますか」の設問で前年度より向上させる。
- ⑬ 校内生徒アンケートでの「朝食を毎日食べていますか」の設問で肯定的回答を８０％以上にする。
- ⑭ 校内生徒アンケートでの「運動することが好き」の設問で肯定的回答を８０％以上にする。

【その他】

小中兼務を計画・実施するとともに、毎年小中教員の全体会・合同研修会を１回以上開催し、教職員の相互授業見学や生徒間交流などを複数回実施する。

３ 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

〔全市共通目標〕 ②③については、各取組の成果として目標を達成できた。①④については目標を達成できなかったが、①については１００％解消に向けて指導・見守りを継続中、④については家庭とも連携した指導を粘り強くおこない、昨年より登校日数が増えている生徒もいる。

〔学校園の年度目標〕 各取組の成果として、⑥はわずかに目標値に満たなかったが、それ以外は目標を達成できた。

〔総括〕全体として概ね目標を達成できた。今後も一人ひとりが安心して登校できる環境づくり、一人ひとりの課題に向き合って成長できる生徒指導に努めていく。

〔今後の課題〕 道徳の教科としての取組を一層進めていく必要がある。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

〔全市共通目標〕 ①２・３年ともに達成できた。②③達成できた学年とできなかった学年があった。⑤男子は達成、女子は未達成であった。平均すると目標値５％は超えなかったが、昨年度より２％上回っている。

〔学校園の年度目標〕 ⑥国語ＡＢ・数学ＡＢとも大阪府平均を上回り目標を達成した。数学は全国平均も上回った。⑦大阪府を上回ったのは３年数学と２年の理科だけであった。⑧すべての学年で大阪市平均を下回った。⑨昨年と比べると約２倍に増加している。⑩～⑭アンケートの結果により⑭はわずかに目標値に達しなかったが、それ以外は達成できた。

〔総括〕 3年生については、3年間の指導の中で着実に学力の向上がみられる。1・2年生については、まだまだ市・府と比較して及ばない結果になっているが、2年生は昨年度と比べるとやや向上しており、取り組みの成果があらわれている。

昨年度の課題であった英語についても、3年生の英検取得率が大幅に増加するなど、少しずつ成果が出始めている。

〔今後の課題〕 各種質問紙調査では学習意欲に関しては高い傾向にあるが、チャレンジテストにおいて無回答率が増えている。今後も高い学習意欲を維持させながら、いかに点数に結びつけるかの学力課題を克服する工夫が必要である。

【その他】

①小中一貫教育の充実

〔総括〕 英語についての連携がすすんだり、両校の学力実態から言語活動に課題があると共通理解できたこと等、学力向上の視点、カリキュラムの一貫性に向けて取り組みを進められた。

〔今後の課題〕 学力の課題について、連携して取り組んでいく。

②教員の授業改善

〔総括〕 計画通りに教員の研究授業に取り組み、相互に授業改善を図れた。

〔今後の課題〕 次年度は相互参観だけでなく、全員参加の研究協議会を持つ。

(様式2)

大阪市立矢田西中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>① 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>② 平成29年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を90%以上にする。</p> <p>③ 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童(生徒)数を前年度より減少させる。</p> <p>④ 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童(生徒)の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>⑤ 今年度の全国学力・学習状況調査での「将来の夢や目標を持っていますか」の設問で肯定的回答を70%以上にする。</p> <p>⑥ 校内生徒アンケートでの「学校は落ち着いており、安心して学校生活を送れる」の設問で肯定的回答を90%以上にする。</p> <p>⑦ 校内生徒アンケートでの「楽しい学校生活を送っている」の設問で肯定的回答を80%以上にする。</p> <p>⑧ 校内生徒アンケートでの「すすんで挨拶をしている」の設問で肯定的回答を80%以上にする。</p> <p>⑨ 校内生徒アンケートでの「自分にはよいところがある」の設問で肯定的回答を70%以上にする。</p> <p>⑩ 校内生徒アンケートでの「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の設問で肯定的回答を90%以上にする。</p> <p>⑪ 校内生徒アンケートでの命や人権の尊さについての設問で肯定的回答を90%以上にする。</p> <p>⑫ 校内生徒アンケートでの「読書が好き」の設問で肯定的回答割合が前年度より上回る。</p> <p>⑬ 校内保護者アンケートでの「学校は情報公開(学年・学級通信・ホームページなど)をよく行っている」の設問で肯定的回答を75%以上にする。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>地域・消防署・区役所と連携した防災訓練を実施し、防災意識を高める。</p> <p>指標</p> <p>学校アンケートの「学校では災害のときにどうすればよいかを学ぶ機会がある」の設問で肯定的回答を90%以上にする。</p>	A

取組内容②【施策１、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 問題行動の未然防止に向けて警察等の関係機関と連携した取り組みを行う。	B
指標 各学年で防犯教育・携帯安全教室などをそれぞれ年１回実施する。	
取組内容③【施策１、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 生活指導上の問題の解消に向けて、地域の青少年指導員や保護司と連携する。	B
指標 青少年指導員との合同巡視を毎月１回、保護司会を学期に１回開催する。	
取組内容④【施策１、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 いじめの早期把握と迅速な解消に向けて取り組む。	C
指標 毎学期１回、いじめアンケートを実施し、認知したいじめ事案に対して、年度末までに「解消している」を９５％以上にする。	
取組内容⑤【施策１、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 教職員の共通理解を図り、組織的に生徒指導をおこない、生徒の規範意識を高める。	A
指標 学校アンケートにおいて、「学校のルール、社会のルールを守っている」「決められた服装を守っている」の設問で、肯定的回答９０％以上を維持する。	
取組内容⑥【施策２、道徳心・社会性の育成】 互いの違いを認め合い、人権尊重の精神と態度を育てる教育を推進する。	A
指標 学校評価アンケートの「学校では、人権の大切さや、外国の人・障がいのある人・高齢者などいろいろな立場の人に対する理解について学ぶ機会がある」の設問で肯定的回答を８５％以上にする。	
取組内容⑦【施策２、道徳心・社会性の育成】 道徳の授業を計画的、組織的に行う。	C
指標 各学年の教員全員が年に１回以上道徳の授業を行う。	
取組内容⑧【施策２、道徳心・社会性の育成】 校内の共通理解を図り、障がいのある生徒と共に生き、共に学び、共に成長することのできる集団を組織的に育てる。	B
指標 障がいのある生徒についての校内委員会を毎月１回開き、情報交換を行う。 インクルーシブ教育についての研修を年１回以上行う。	

取組内容⑨【施策２、道徳心・社会性の育成】 心を揺さぶられる芸術や芸能に触れ、体験することで、豊かな人間性を育成する。	B
指標 年に１回芸術鑑賞行事を実施する。	
取組内容⑩【施策２、道徳心・社会性の育成】 人と人との「つながり」を大事にした学校行事を充実させ、前向きで活動的な学校文化をめざす。	B
指標 学校アンケートの「学校行事は充実している」の設問で肯定的回答を９０％以上、「学校は楽しい」の設問で肯定的回答を８０％以上にする。	
取組内容⑪【施策２ 道徳心・社会性の育成】 職業調べ・職業講話等を学年に応じて実施し、生徒一人一人が将来の生き方を考える力を養う。	A
指標 学校アンケートの「学校では、将来の進路や生き方について、考える機会がある」の設問で肯定的回答を９０％以上にする。	
取組内容⑫【施策３ 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 言語力向上、表現力育成のために、読書活動の推進に取り組み、学校図書館を活性化する。	B
指標 貸出冊数が昨年度を上回る。図書館を整備し、蔵書冊数８０００冊以上にする。	
取組内容⑬【施策３ 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 大阪の歴史・文化について学び、郷土を愛する心を育む。	B
指標 大阪の史跡や博物館等で学習する機会を年１回設ける。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【達成状況】 取組内容①：区役所・地域・消防署と連携した防災訓練を実施し、２学期には、火災避難訓練を全学年同時に行った。アンケート結果は９９％で目標を十分上回った。 取組内容②：一学期に全生徒を対象とした携帯教室を行った。また、終業式に東住吉警察署による夏休みの防犯における警察講話を実施した。 取組内容③：合同巡視を毎月実施した。各学期に保護司会を行った。 区役所・子ども相談センターとのケース会議も毎月１回は実施し、必要なときは、すぐに電話などで連絡し連携を図った。 取組内容④：各学期でいじめアンケートを実施し、早期発見・把握につとめた。 「解消している」の目標値９５％に達しなかった。 取組内容⑤：制服・頭髪規定を作り、季節ごとに教職員に配布し共通理解を図った。また、教室掲示のプリントも作成し生徒への共通理解を図った。指導があった場合	

<p>も学年間・学校全体など必要に応じて組織的に指導を行っている。アンケートの結果は、９９％で目標を十分上回った。</p> <p>取組内容⑥：学校評価アンケートの「人権の大切さや、外国の人・障がいのある人・高齢者などいろいろな立場の人に対する理解について学ぶ機会がある」の設問で肯定的回答が９５％であった。３年生で部落問題学習に取り組んだ。</p> <p>取組内容⑦：道徳の年間教育に基づいた各学年の実情に応じた道徳教育を進めたが各学年の教員全員が年に１回以上道徳の授業を行うという指標が達成できなかった。</p> <p>取組内容⑧：障がいのある生徒についての校内委員会を毎月１回開き、綿密に情報交換を行うことができた。インクルーシブ教育についての研修を行った。障がいのある生徒と共に学び共に成長することのできる集団育成に努めた。</p> <p>取組内容⑨：古典芸能に関する芸術鑑賞を行った。</p> <p>取組内容⑩：学校評価アンケートの「学校行事は充実している」の設問で肯定的割合が９４％「学校は楽しい」の設問で肯定的割合が８８％であった。</p> <p>取組内容⑪：６月に２年生で職場体験、１１月に１年生が職業講話、２月に職場訪問を実施した。３年生では教育相談や懇談などをはじめ、日々卒業後の進路について考える機会を持った。また、アンケート結果は９８％で目標を十分に上回った。</p> <p>取組内容⑫：図書館の利用が大幅に増加し、貸出冊数が非常に増えた。「読書が好きである」の肯定的割合が昨年度全国学力学習状況調査（３年）で５７．５％であったが今年度校内アンケートで６３％となった。蔵書冊数が８０００冊以上になった。</p> <p>取組内容⑬：１１月に２年生の校外学習で大阪市内の博物館等を班別に散策し、目標を達成した。</p>	
次年度への改善点	
<p>取組内容①：訓練だけでなく、様々な防災プログラムを充実させる。</p> <p>取組内容②：警察等の関係機関との連携した取り組みを増やしていく。</p> <p>取組内容③：地域の青少年指導員や保護司との連携を深め、地域の生活指導の情報も入手していく。</p> <p>取組内容④：いじめにおいて、早期把握と迅速な対応ができるよう「いじめアンケート」の実施日を懇談前に実施できるようにする。</p> <p>取組内容⑤：学校のルールなどを、生徒が理解でき、教職員の共通理解が図れるように明確にしていく。</p> <p>取組内容⑥：生徒の自尊感情を高める人権教育を多岐にわたって進めていく。</p> <p>取組内容⑦：道徳の時間を確保する。道徳の評価化にむけて準備を進める。</p> <p>取組内容⑧：特別支援教育の実施時期と学年に応じた特別支援教育を進めていく。</p> <p>取組内容⑨：次年度も引き続き、人と人との「つながり」を大事にした学校行事を充実させ、前向きで活動的な学校文化をめざしていく。</p> <p>取組内容⑩：人権尊重の精神、豊かな感性を育む学校行事を進めていく。</p> <p>取組内容⑪：１年の職業講話・職場訪問、２年の職場体験と定着しつつあるので、継続して実施しけるよう準備を進めていく。</p> <p>取組内容⑫：図書館利用者をもっと増やすために、多種多様な書籍の充実を図る。</p> <p>取組内容⑬：文化祭の取り組みと重なるので、実施の時期を検討する必要がある。</p>	

大阪市立矢田西中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>① 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと)</p> <p>② 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率4割以下の児童(生徒)を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。</p> <p>③ 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率7割以上の児童(生徒)を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。</p> <p>④ 平成29年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童(生徒)の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>⑤ 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である(立ち幅とび)の平均の記録を、前年度より5ポイント向上させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>⑥ 全国学力・学習状況調査における知識に関する問題・活用に関する問題の平均正答率で、大阪府平均を上回る。</p> <p>⑦ 大阪府の中学校チャレンジテストにおける各教科の平均正答率で、大阪府平均を上回る。</p> <p>⑧ 大阪市英語力調査における各学年の平均スコアで大阪市平均を上回る。</p> <p>⑨ 大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検3級以上の英語力を有する生徒の割合を前年度より上回る。</p> <p>⑩ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における調査結果で、男女とも全国平均を上回る。</p> <p>⑪ 校内生徒アンケートでの「授業がわかりやすい」の設問で前年度より向上させる。</p> <p>⑫ 校内生徒アンケートでの「家で学校の授業の復習(予習)をしていますか」の設問で前年度より向上させる。</p> <p>⑬ 校内生徒アンケートでの「朝食を毎日食べていますか」の設問で肯定的回答を80%以上にする。</p> <p>⑭ 校内生徒アンケートでの「運動することが好き」の設問で肯定的回答を80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①－１【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 〔国語科〕 言語力向上の取り組みを行う。	指標 生徒が自分の考えを表現し、文章化する力を身につける。 すべての学年で作文指導を実施する。	B
取組内容①－２【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 〔社会科〕 基礎・基本の学力を向上させるため、重要語句の小テストを行い、その定着を図る。		
取組内容①－３【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 〔数学科〕 基礎・基本の習得につとめ、「問題が解ける」感覚を身につけさせる。また生徒間の教え合いができる環境や主体的に考えるために発問の工夫をする。	指標 大阪府中学校チャレンジテストにおける平均正答率で、１・２年は大阪府平均に並び、３年は上回る。	B
取組内容①－４【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 〔理科〕 科学的に探究する能力の基礎と態度を育成するために、生徒の興味、関心、意欲を高める観察や実験を単元ごとに必ず行う。		
取組内容①－５【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 〔音楽科〕 音楽活動の基礎的な演奏能力の伸長を図る。	指標 アルトリコーダーで１オクターブの音階を演奏できる生徒を８５％以上にする。	B
取組内容①－６【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 〔美術科〕 美術の基礎的能力の伸長を図り、美術を愛好する気持ちを育む。		
取組内容①－７【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 〔技術家庭科〕 授業の中で適宜、実習や制作を行い、基礎的な知識や技術の習得を図る。	指標 実技授業後のアンケート調査で、理解度・習得度の肯定的回答を７０％以上にする。	B

<p>取組内容②【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 放課後学習や長期休業期間の補充・チャレンジ学習を実施し、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上に努める。</p>	B
<p>指標 ・大阪府の中学校チャレンジテストにおける各教科の平均正答率で、前年度を上回る。 ・大阪市英語力調査における各学年の平均スコアで前年度を上回る。</p>	
<p>取組内容③【施策６ 国際社会において生き抜く力の育成】 〔英語科〕各学年ともに週２回以上ＩＣＴを活用した授業を展開し、帯活動としてListeningテストを週２回以上実施する。２・３年生においては長文問題を意識した「読みトレ」を２年生５０日分、３年生１００日分取り組む。</p>	B
<p>指標 大阪市英語力調査（英検ＩＢＡ）における中学校卒業段階における英検３級以上の英語力を有する生徒の割合を３０％以上にする。</p>	
<p>取組内容④【施策６ 国際社会において生き抜く力の育成】 外国にルーツのある生徒が文化などの互いの違いを認め合い尊重しあう関係性をめざして、多文化共生の教育を進める。</p>	B
<p>指標 韓国・朝鮮をはじめとする外国の文化や歴史に触れる取り組みを各学年１回以上実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【施策６ 国際社会において生き抜く力の育成】 ＩＣＴを活用した教育を推進する。</p>	B
<p>指標 ＩＣＴを活用した授業の実施回数を前年度より２０％増やす。</p>	
<p>取組内容⑥【施策７ 健康や体力を保持増進する力の育成】 健康や安全に関する基本的な生活習慣が身につくような指導を計画的にすすめる。</p>	A
<p>指標 保健だより等を活用して積極的な情報発信に努め、学校アンケートで「私は健康的な生活を送るよう心がけている」の設問で肯定的な回答を８０％以上にする。</p>	
<p>取組内容⑦【施策７ 健康や体力を保持増進する力の育成】 食に関する興味・関心を高めるような指導を計画的にすすめる。</p>	A
<p>指標 学年別に食に関する指導を実施し、学校アンケートで「学校では「食」について学ぶ機会がある」の設問で肯定的回答を８０％以上にする。</p>	
<p>取組内容⑧【施策７ 健康や体力を保持増進する力の育成】 「喫煙・飲酒・薬物乱用の害に関する指導」や「性に関する指導」を計画的にすすめる。</p>	A
<p>指標 学校アンケートで「学校では「喫煙・飲酒・薬物乱用の害」や「性」についてなど、命を大切に生きて生きることを学ぶ機会がある」の設問で肯定的回答を８０％以上にする。</p>	

取組内容⑨【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 〔保健体育科〕集合整列・準備運動などの授業規律を確立するとともに、運動の楽しさだけでなく、体力や健康への関心を高め、体力の向上を図る取り組みを進める。	A
指標 スポーツテストを年1回実施し、各個人の体力・運動能力を把握させる。 学校アンケートの「学校では、自分の体力や運動能力を知り、体力や運動能力を向上させる機会がある。」の設問で肯定的回答を90%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【達成状況】	
取組内容①－1：単元の終わりに感想文という形で考えたことを書かせ添削した。3年生においては、問題集を使い作文練習を実施した。目標は概ね達成している。今後も論理的な文章を書くための指導を続けていく。	
取組内容①－2：各学年とも、単元ごとの復習の小テストを実施した。正答率も70%をこえ、少しずつではあるが、基礎的語句などの定着が図れてきている。しかし、その一歩先の応用問題になると、まだまだ回答率が低い状況である。今後も、基礎定着を図りつて応用問題の正答率も向上していきたい。	
取組内容①－3：生徒個々の学力状況と得意不得意の単元を見極め、適宜授業のスタイルの工夫を行ってきた。また、3年チャレンジテスト大阪府平均が49.0点、大阪市平均が47.9点に対して、本校3年生平均点は50.5点であり、僅かに指標を上回った。2年チャレンジテスト大阪府平均は59.7点、大阪市平均58.0点に対して、本校2年生平均点は54.4点であり、僅かに下回った。1年チャレンジテスト大阪府平均は58.6点、大阪市平均56.7点に対して、本校1年生平均点は53.7点であり、僅かに下回った。	
取組内容①－4：実験や観察を通して、基礎・基本をより理解しやすくする授業に努めている。また、理科室の整備を進めている。授業アンケートにおいて、「授業を受けてその内容に興味や関心や意欲を持つようになっていきますか」の設問で肯定的な回答が80%を超えている。	
取組内容①－5：基礎的な演奏能力の伸長を図るため、相互チェック表等を使用し個別にアドバイスをしながら指導している。各学年クラス合奏に向け、アルトリコーダーで1オクターブの音階の演奏ができるように85%以上の生徒がなっている。	
取組内容①－6：基礎的な制作技法から、応用的な活用まで学年の段階に応じた指導ができた。授業アンケートを行い、「授業がよくわかる」「美術が好き」の設問で肯定的な回答が85%以上で目標を上回った。	
取組内容①－7：各学年技術・家庭科ともに実習授業を行った。実習授業において進度に差が生じたが、追加課題や補習などで個々に応じた指導を行った。授業アンケートでは肯定的な意見が70%を超えている。	
取組内容②：夏休みには各学年で学力補充学習を行った。また、チャレンジ講座も開催し、のべ93人が参加した。放課後には各教科・各学年でテスト前の学習会を、冬休みには3年生で補充学習を実施した。大阪府の中学校チャレンジテストにおける各教科の平均正答率で、3年生は5教科中4教科、2年生は3教科中2教科、前年度を上回った。また、大阪市英語力調査における各学年の平均スコアでは3学年とも前年度を上回った。	
取組内容③：ICTを使ってほぼ毎時間授業に取り組み、目標を十分に上回った。Listeningに	

<p>については1年生では練習から始め、2学期以降は2・3年生と同じように、テスト形式で実施し、目標を達成した。「読みとれ」は計画通り実施し、目標を達成した。英検 IBA(大阪市英語力調査)に向けては、総合力が必要で卒業段階において間に合うように努力し続けているが、各学年ともに大阪市の平均には及ばなかったが、11月の時点で前年度を上回って、3年生で3級レベル以上の生徒が44.4%となり目標を十分に上回った。1年生では9.7点2年生では7.4点前年度を上回った。チャレンジテストでは、府の平均では前年度より0.2点下回ったものの、大阪市の平均点よりは0.2点上回った。大阪市統一テストでは、2.1点前年度より上回った。その結果、各テストでも少しではあるが学力の向上が見られた。全体的に各学年共に目標を概ね達成した。</p> <p>取組内容④：国際理解教育が年間計画に基づいて行われ、外国の文化や歴史に触れる取り組みを各学年1回以上実施できた。韓国・朝鮮をはじめとするチョソン友の会の活動、チョソン合宿、また文化祭では三中合同でサムルノリの舞台発表を行うなど、充実した活動を行うことができた。</p> <p>取組内容⑤：各教科がすべての単元においてではないが、プロジェクターや大画面テレビ、書画カメラ、タブレットを用いた授業を展開している。さらに多くの単元でICTを用いた授業を展開できるように環境を整えていく。ICTを活用した授業の実施回数は、前年度より20%増やすことができた。</p> <p>取組内容⑥：保健だよりの定期・号外発行し情報発信を行った。学校アンケートで、「健康的な生活を送るよう心がけている」の設問で肯定的な回答が85%で目標を上回った。また、施設点検を行った。</p> <p>取組内容⑦：学年別で「食」に関する指導を実施した。学校アンケートで「食について学ぶ機会がある」の設問で肯定的な回答が97%で目標を上回った。</p> <p>取組内容⑧：学校アンケートで「喫煙・飲酒・薬物乱用の害や性についてなど、命を大切に生きることが学ぶ機会がある」の設問で肯定的な回答が99%で目標を上回った。</p> <p>取組内容⑨：1学期に全学年対象にスポーツテストを実施し、各個人の体力・運動能力を把握させる機会を持った。学校アンケート結果は98%で目標を十分上回った。</p>	<p>次年度への改善点</p>
<p>取組内容①－1：文章の構成力、語彙力をつけるための指導を続けていく。</p> <p>取組内容①－2：基礎基本の定着とともに、応用的な学力の定着も身に着ける。</p> <p>取組内容①－3：基礎・基本の習得のために、「家庭学習課題を家庭でする」習慣を身に付ける。また提出した内容から「身に付ける」ことができているのか判断をして、適宜個別指導も行う。毎回の授業では、単元と科目から身に付けさせたい力を明確にさせてから、計画・実行・反省を続けていく。</p> <p>取組内容①－4：実験。観察器具の点検・整備を計画的に継続して行っていくとともに、さらに興味や関心を高める実験・観察方法を工夫していき、基礎・基本の定着につなげていく。また、新課程への移行を踏まえ、特に新項目における授業づくりを行っていく。</p> <p>取組内容①－5：生徒が興味・関心を抱き取り組める教材の精選に努め、基礎的な演奏能力の伸長を図る。</p> <p>取組内容①－6：鑑賞教育を深化させる。制作が遅れがちな生徒に対する個別指導を更に進める。</p>	

- 取組内容①－⑦：実習内容をより吟味し、生徒の実態に応じたものを取り入れ、取り組む時期についてもより計画的に行う。
- 取組内容②：長期休業中の各学年での学力補充学習や、テスト前の放課後の勉強会を引き続き実施していく。夏休みチャレンジ講座は2年目を終え、定着しつつあるので、内容・実施期間等充実させていく。
- 取組内容③：英検 IBA では、前年度より英検 3 級レベルの割合が増えたものの、市平均よりは下回っているので、4 領域共に一層のレベルアップを図る。デジタル教科書が授業用パソコンに組み込まれており、ICT 機器を使った授業の充実を図らなければならない。
- 取組内容④：結集生徒がさらに充実した活動を行えるように教職員の協力を進める。ソンセンニムや矢田 7 校との連携をより円滑にし、さらに充実した活動を行えるようにする。
- 取組内容⑤：ICT 教育の情報発信を行うとともに、各教科が各単元の授業において、ICT 機器を使用しやすいように整備し、さらに多くの単元で ICT を用いた授業を展開できるようにしていく。
- 取組内容⑥：定期健康診断結果による受診の声かけを行い、有所見の放置者を減らす。
- 取組内容⑦：学校アンケートにより「朝食を食べている」の設問で 18%の生徒が「あまり食べていない・食べていない」と回答しているので「食育」をさらに進めていく。
- 取組内容⑧：段階的継続的な指導を行いさらなる意識向上を目指し、多様な性についての学習を取組んでいく。
- 取組内容⑨：引き続き、全学年で縦割りの体制で実施していく。

(様式2)

大阪市立矢田西中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【その他】 学校の年度目標 小中兼務を計画・実施するとともに、毎年小中教員の全体会・合同研修会を1回以上開催し、教職員の相互授業見学や生徒間交流などを複数回実施する。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策8 施作を実現するための仕組みの推進】 小中一貫教育の充実を図るため、小中合同研修会や授業交流、6年生の体験・交流学习の企画及び運営を行う <hr/> 指標 学年末の小学校6年生の中学校入学に関するアンケートの意識調査において、8割以上の項目で肯定的な回答を80%以上にする。 小中両校の職員の合同研修や授業研究等を通し、お互いの認識の隔たりが少なくなったと考える職員が全体の90%以上になるようにする。	B
取組内容②【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】 指導法の改善に向けて、研究授業に積極的に取り組む <hr/> 指標 研究授業を全教員1回以上実施する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【達成状況】 小中連携や授業研究の推進について、概ね計画通りに取り組んでいる。学力課題や英語力などについて小中で共通理解が図れるようになってきている。 取組内容①: 1 学期末に小中合同研修会にて生活指導の違いや実態比較や学力実態(全国学力標準検査等)の比較及び小学校英語活動と英語カリキュラムの接続、中学校の定期テストと小学校単元テストの比較についてのグループ討議及び小学校の英語研修に中学校教員が参加し互いの学習課題について理解を深めた。11月の2回目の相互研修では、テーマを学力実態とその定着に絞り、両校とも言語活動での課題を共通認識することができた。 取組内容②: 5月に3年職員、11月には2年職員、2月には1年職員の研究授業を実施し、目標を達成した。 6月には2年次研修と若手教員研修会を兼ねて研究授業と授業後の研究協議会を実施した。

次年度への改善点
取組内容①： 言語活動を中心のテーマにして、9 年間を見通した言語活動能力の育成を研究するとともに、従来の小中連携の活動をより深めるようにする。
取組内容②： 全教員参加の形での研究授業・研究討議を実施できるよう、時間の調整を図り計画していく。

平成29年度 学校関係者評価報告書

大阪市立矢田西中学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の評価は妥当である。学校評価アンケートの結果からも、概ね高い評価を得ている。特に、生徒も保護者も8割以上が、①学校が安心できる場所になっていて楽しい、②ルールを守り、あいさつができる、③仲間を思いやる心があると考えており、安心して安全な学校になっているといえる。また、授業をはじめ、様々な教育活動に対してもがんばっている結果が数字にあらわれている。種々の学力・体力調査の点数についても、不十分でありながらも、着実に向上がみられている。今後も、地域・保護者と連携しながら、生活指導、学習指導に尽力してほしい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標(小・中学校)

- ① 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ② 平成29年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を90%以上にする。
- ③ 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童(生徒)数を前年度より減少させる。
- ④ 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童(生徒)の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

- ⑤ 今年度の全国学力・学習状況調査での「将来の夢や目標を持っていますか」の設問で肯定的回答を70%以上にする。
- ⑥ 校内生徒アンケートでの「学校は落ち着いており、安心して学校生活を送れる」の設問で肯定的回答を90%以上にする。
- ⑦ 校内生徒アンケートでの「楽しい学校生活を送っている」の設問で肯定的回答を80%以上にする。
- ⑧ 校内生徒アンケートでの「すすんで挨拶をしている」の設問で肯定的回答を80%以上にする。
- ⑨ 校内生徒アンケートでの「自分にはよいところがある」の設問で肯定的回答を70%以上にする。
- ⑩ 校内生徒アンケートでの「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の設問で肯定的回答を90%以上にする。
- ⑪ 校内生徒アンケートでの命や人権の尊さについての設問で肯定的回答を90%以上にする。
- ⑫ 校内生徒アンケートでの「読書が好き」の設問で肯定的回答割合が前年度より上回る。
- ⑬ 校内保護者アンケートでの「学校は情報公開(学年・学級通信・ホームページなど)をよく行っている」の設問で肯定的回答を75%以上にする。

○達成状況の評価については妥当である。学校評価アンケートの結果を活用するなど、数値によって達成状況を示している。各取組のなかで、学校が生活指導上の課題や道徳性・自他を尊重する人間性・防災意識などを向上させることに努力したことがうかがえる。次年度も引き続き、安心して安全な学校づくりに努力してほしい。そして子どもが家庭や地域で安心して生活できる環境をつくっていくために、地域・保護者との連携を図ってもらいたい。

年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標(小・中学校)

- ① 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。
- ② 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率4割以下の児童(生徒)を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- ③ 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率7割以上の児童(生徒)を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- ④ 平成29年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童(生徒)の割合を、前年度より増加させる。
- ⑤ 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である(立ち幅とび)の平均の記録を、前年度より5ポイント向上させる。

学校の年度目標

- ⑥ 全国学力・学習状況調査における知識に関する問題・活用に関する問題の平均正答率で、大阪府平均を上回る。
- ⑦ 大阪府の中学校チャレンジテストにおける各教科の平均正答率で、大阪府平均を上回る。
- ⑧ 大阪市英語力調査における各学年の平均スコアで大阪市平均を上回る。
- ⑨ 大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検3級以上の英語力を有する生徒の割合を前年度より上回る。
- ⑩ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における調査結果で、男女とも全国平均を上回る。
- ⑪ 校内生徒アンケートでの「授業がわかりやすい」の設問で前年度より向上させる。
- ⑫ 校内生徒アンケートでの「家で学校の授業の復習(予習)をしていますか」の設問で前年度より向上させる。
- ⑬ 校内生徒アンケートでの「朝食を毎日食べていますか」の設問で肯定的回答を80%以上にする。
- ⑭ 校内生徒アンケートでの「運動することが好き」の設問で肯定的回答を80%以上にする。

○達成状況の評価については妥当である。アンケートや学力検査の結果等を活用して、数値によって達成状況を示している。各教科が生徒の学力向上につとめて一定の成果がみられ、また様々な取り組みによって、健康や体力の向上などに努めていることがわかる。今後も継続して学力向上に取り組み、学力調査でも目標達成に向けて、成果があがるように努めてほしい。

年度目標：【その他】小中一貫教育の推進、教員の授業改善

小中兼務を計画・実施するとともに、毎年小中教員の全体会・合同研修会を1回以上開催し、教職員の相互授業見学や生徒間交流などを複数回実施する。

○達成状況の評価については妥当である。英語の連携や学力課題の共通理解など、小中一貫教育に向けた取り組みがすすんだ。今後も一小一中の利点を活かし、さらなる連携に努めてほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

部活動の維持と活性化、道德教育の推進、さらなる学力の向上に向けて、今後も引き続き教職員一丸となって取り組んでもらいたい。また、不登校や家庭学習の確立などの課題についても、地域・家庭と連携しながら課題解決に向けて努力してほしい。

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
①暴力行為の状況等	これまでも規範意識を高めるとともに一人ひとりの内面にせまる生徒指導を重視してきた。意思を持って暴力をふるう生徒や感情をコントロールできずに大けがを負わせるような暴力をふるう生徒はいなかった。
②いじめの状況等	ほとんどが「からかい」「メールの悪口」等であり、担任や部活動顧問が直ちに対応し、指導や見守りをした結果、ほとんどが解消している。現在解消できていない事案も、指導は済んでおり、生徒の不安が完全に解消するまで継続して見守りをしていく。
③小・中学校における不登校の状況等	学級担任から働きかけや家庭訪問を繰り返すとともに、スクールソーシャルワーカーや区役所、子ども相談センター等と連携して取り組んだ結果、昨年よりも登校日数が増えた生徒もいる。